

金沢区地区別データ集

# データde六浦

DATA de KANAZAWA

## 目次

1. 地区の概況—————1
2. 町丁別人口世帯の動向————2
3. 地域の施設等の分布状況——3
4. 年齢別人口と人口移動——4
5. 世帯の状況と居住歴————6
6. 地区の特徴と動向————7



金沢区幸せお届け大使  
ぼたんちゃん

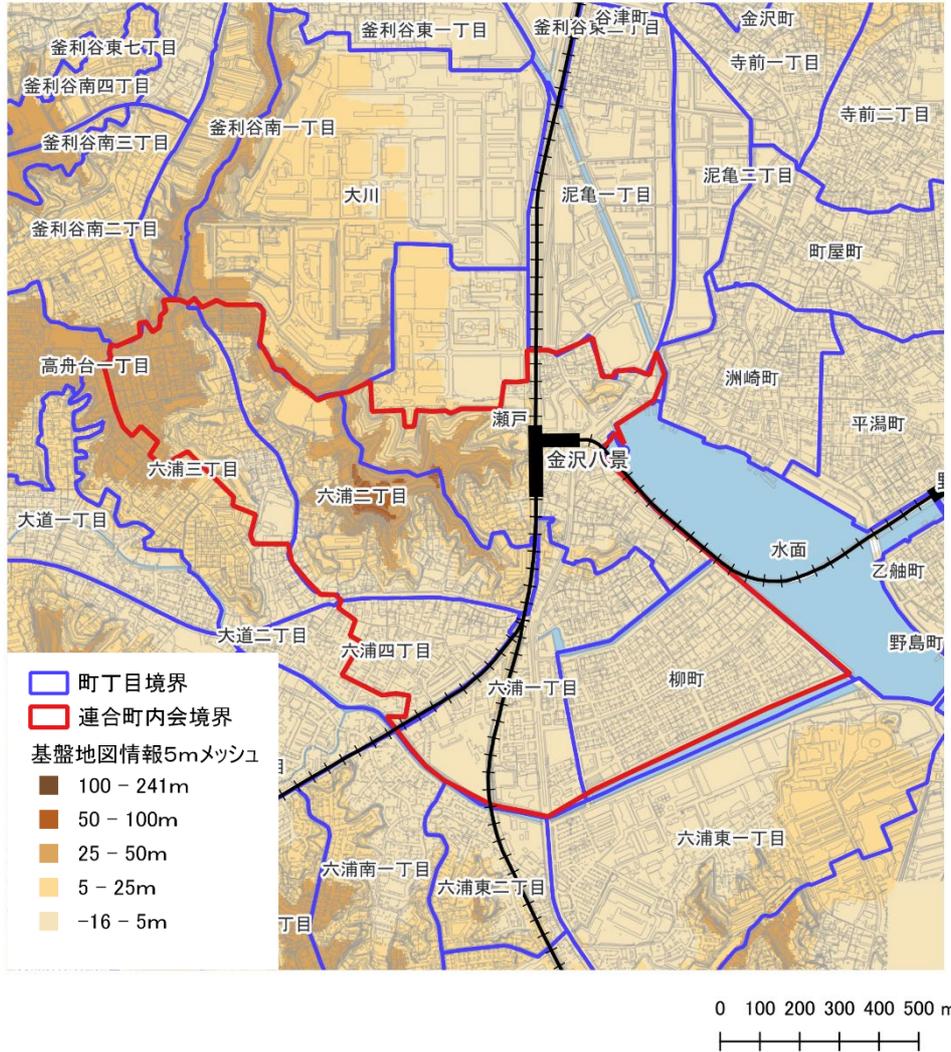
令和7年1月発行

金沢区地域振興課地域力推進担当

# 1. 地区の概況

図1 地区の位置

\*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成。



【横浜市地形図複製承認番号 令6建都計第9016号】

表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

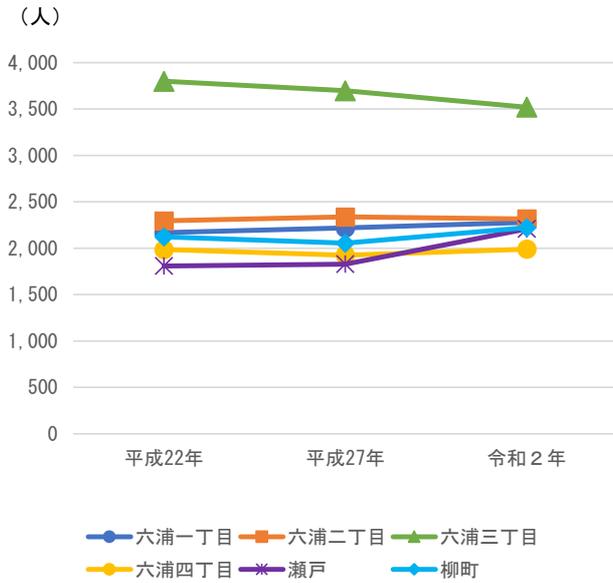
	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～27年 増減数	平成27～ 令和2年 増減数	平成27年 比率	令和2年 比率	令和2年 金沢区比率	令和2年 横浜市比率
人口 (人)	14,174	14,058	14,531	▲ 116	473	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳 (人)	1,420	1,378	1,399	▲ 42	21	9.8	9.6	10.8	11.7
(内0～4歳) (人)	463	434	441	▲ 29	7	3.1	3.0	3.7	4.4
15～64歳人口 (人)	9,390	8,823	8,532	▲ 567	▲ 291	62.8	58.7	57.4	61.3
(内20～24歳) (人)	1,145	1,022	1,089	▲ 123	67	7.3	7.5	5.5	5.3
(内25～39歳) (人)	2,710	2,441	2,538	▲ 269	97	17.4	17.5	13.6	16.5
65歳以上人口 (人)	3,215	3,722	3,931	507	209	26.5	27.1	29.5	24.4
(内65～74歳) (人)	1,768	1,999	1,965	231	▲ 34	14.2	13.5	14.4	11.6
(内75～84歳) (人)	1,052	1,232	1,370	180	138	8.8	9.4	10.5	8.8
(内85歳以上) (人)	395	491	596	96	105	3.5	4.1	4.5	4.0
世帯数 (世帯)	6,753	6,937	7,639	184	702	-	-	-	-
平均世帯規模 (人/世帯)	2.10	2.03	1.90	-	-	-	-	-	-

\*国勢調査による(各年10月1日現在)。

\*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

## 2. 町丁別人口世帯の動向 \* 「国勢調査」による (各年 10 月 1 日現在)。

図 2 町丁別人口の動向



六浦地区には、令和2年10月現在、14,531人が暮らしています。世帯数は、7,639世帯、平均世帯規模は、1.90人/世帯です。(表1参照)

地区全体の人口としては、平成22～27年は減少しましたが、平成27～令和2年の期間の人口は増加に転じています。世帯数は平成22～令和2年は増加が続いています。(表1参照)

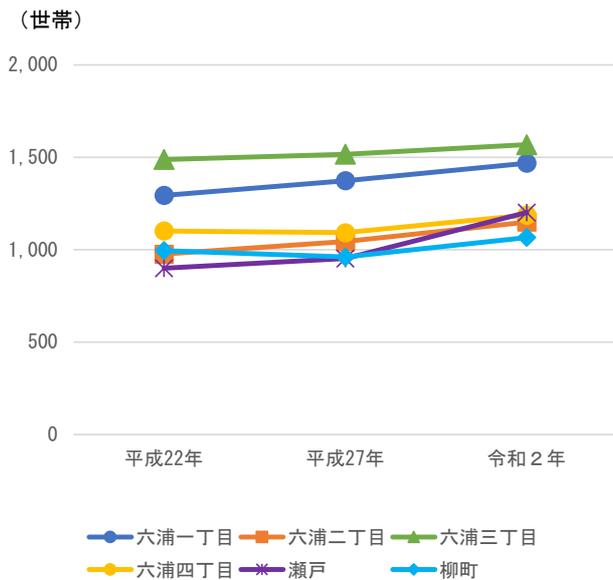
世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の2.10人/世帯から令和2年には1.90人/世帯となっています。(表1参照)

令和2年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、27.1%で金沢区全体(29.5%)を下回っています。平成27年からの5年間で高齢化率は0.6ポイント\*の上昇にとどまっています。

0～14歳の人口(年少人口)は平成22～27年は減少し平成27～令和2年は増加していますが、15～64歳の人口(生産年齢人口)は平成22～令和2年で減少が続いています。高齢人口は平成22～令和2年で増加が続いています。(表1参照)

\*金沢区の高齢化の上昇は2.8ポイント、横浜市の高齢化の上昇は1.1ポイントとなっています。

図 3 町丁別世帯数の動向

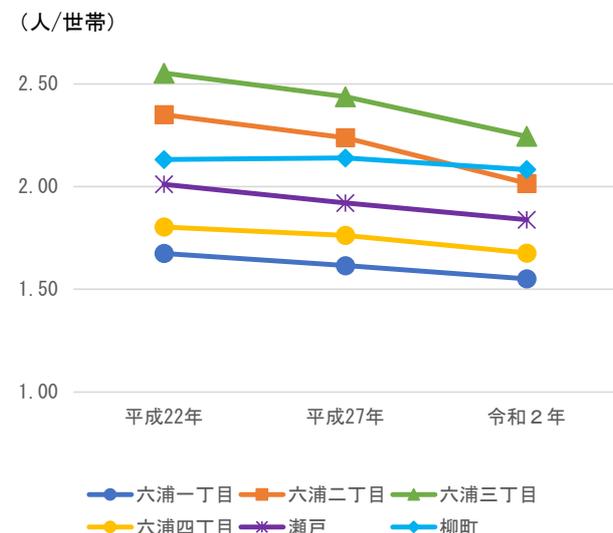


六浦地区には、6町丁が含まれています。

瀬戸は平成27～令和2年に人口、世帯とも増加しています。瀬戸以外の5町丁の人口は横ばいまたは微減で安定し、世帯数は微増しています。(図2,3参照)

平均世帯規模はいずれの町丁も平成22～令和2年に縮小傾向が続いています。(図4参照)

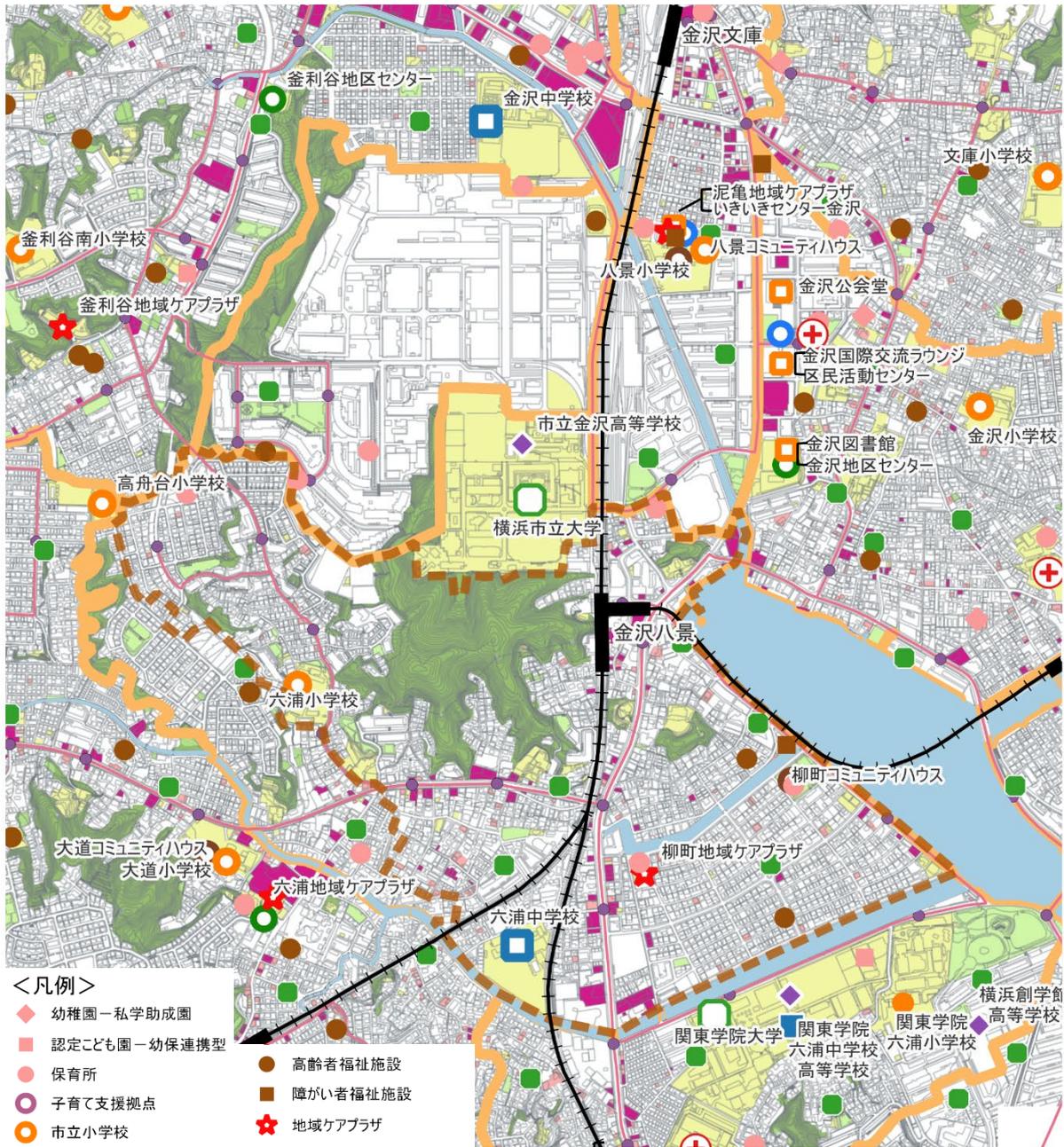
図 4 町丁別平均世帯規模の動向



### 3. 地域の施設等の分布状況

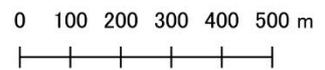
図5 地域の施設等の分布状況

\*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。  
 \*施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



<凡例>

- ◆ 幼稚園－私学助成園
- 認定こども園－幼保連携型
- 保育所
- 子育て支援拠点
- 市立小学校
- 市立中学校
- 特別支援学校
- 私立小学校
- 私立中学校
- ◆ 高等学校
- 大学
- ⊕ 病院
- 高齢者福祉施設
- 障がい者福祉施設
- ★ 地域ケアプラザ
- 町会自治会館
- 区役所、社会福祉協議会等
- コミュニティハウス
- 地区センター
- その他の区民利用施設
- バス停
- バスルート
- 畑
- 山林
- 河川・水路
- 都市公園
- 文教厚生施設用地
- 店舗併用住宅用地
- 商業用地
- 連合町内会境界
- 地区版集計の範囲



【横浜市地形図複製承認番号 令6建都計第9016号】

### 4. 年齢別人口と人口移動

\*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。  
 \*移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

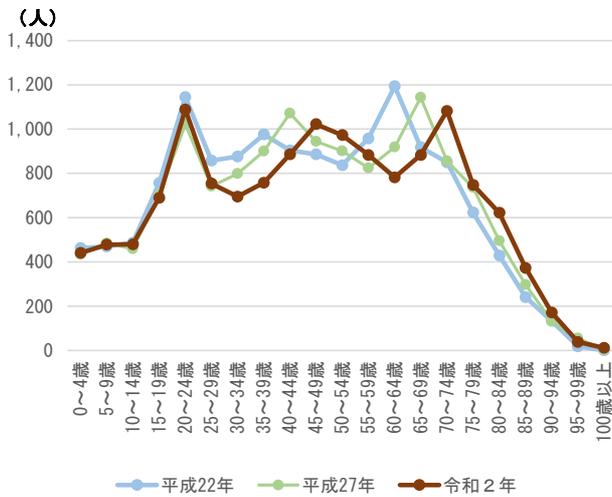


図7 年齢5歳別の人口の推移率

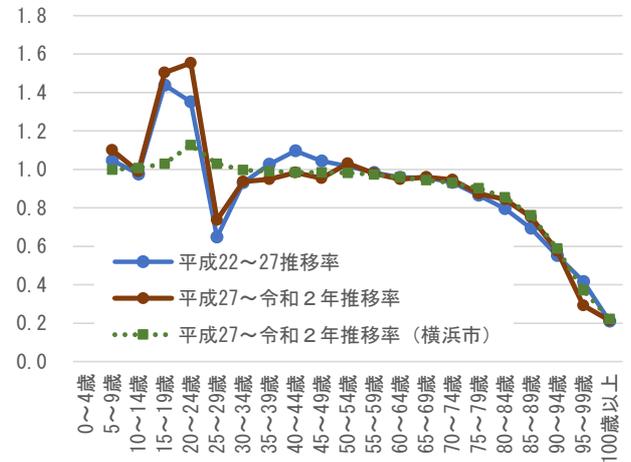
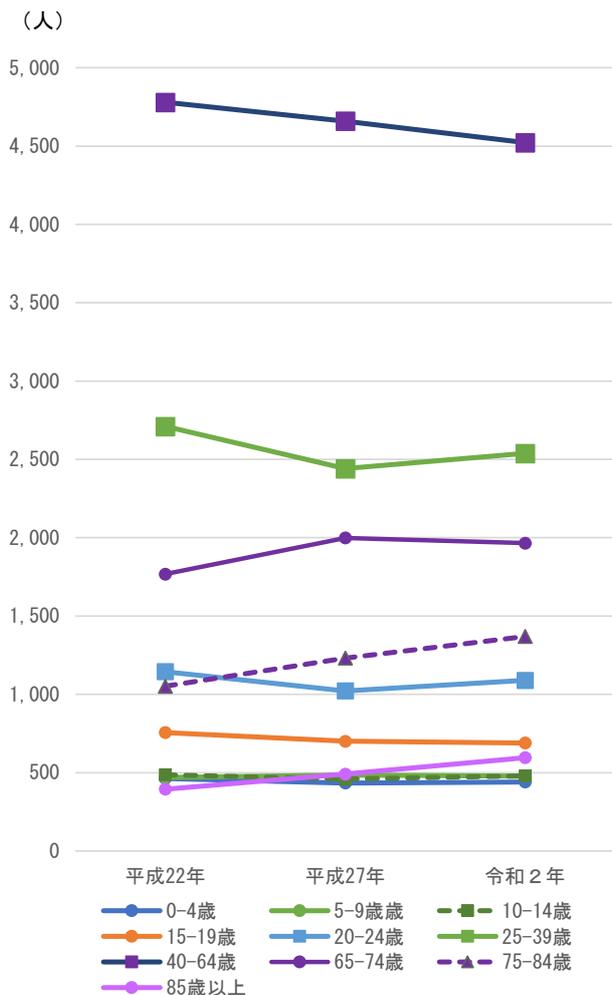


図8 年齢別人口の変化

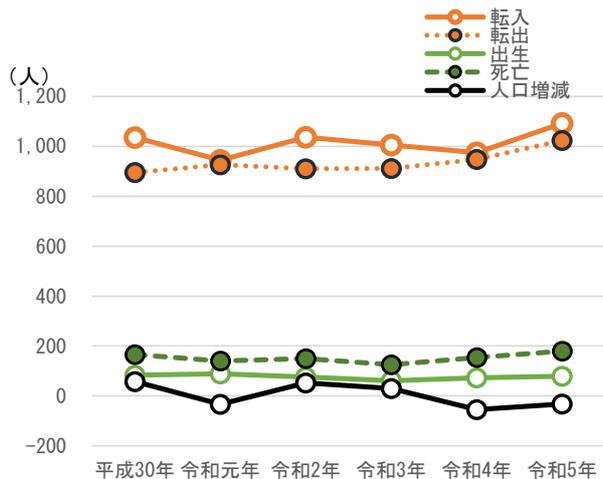


令和2年の六浦地区の年齢別人口は、20～24歳、45～49歳の年代と70～74歳の年代が多い年齢構成になっています。また、20～24歳は平成22年、平成27年、令和2年の3時点で多くなっており、転入が継続している年代であることが分かります。(図6参照)

推移率をみると、平成22～27年は5～9歳と15～24歳、35～54歳の年代で1.0を上回って転入が多くなっています。平成27～令和2年は5～9歳と15～24歳と50～54歳の年代で1.0を上回って転入が多くなっています。平成22～27年、平成27～令和2年ともに15～24歳の転入と25～29歳の転出が目立って多くなっています。(図7参照)

年齢別人口の変化をみると、働き盛り世代の40～64歳は減少が続いています。子育て世代である25～39歳は平成22～27年は減少しましたが、平成27～令和2年には増加に転じています。高齢者人口は、75～84歳、85歳以上の人口の増加傾向が続いています。(図8参照)

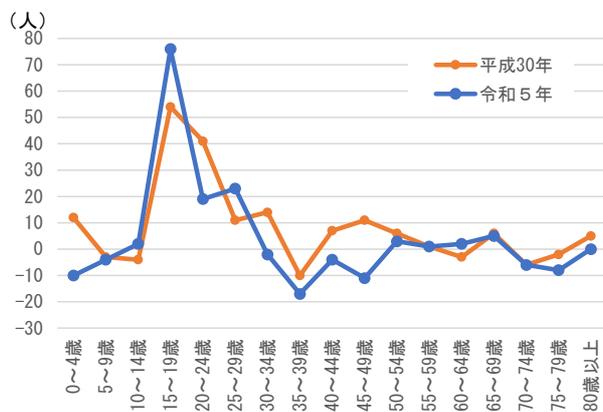
図9 人口移動の動向



平成30年から令和5年の人口移動の動向をみると、各年で900～1,000人前後の転出入があります。平成30～令和5年は転入が転出を上回り社会増加が続いています。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、ともに15～19歳の転入が最も多くなっています。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



### 5. 世帯の状況と居住歴

\*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

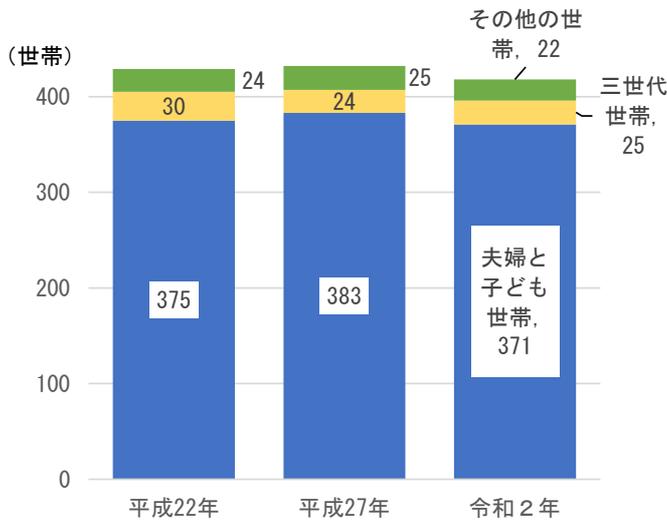


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

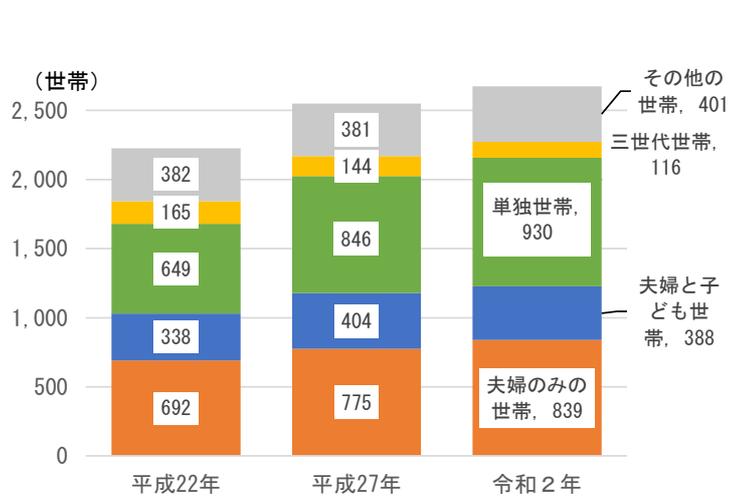


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

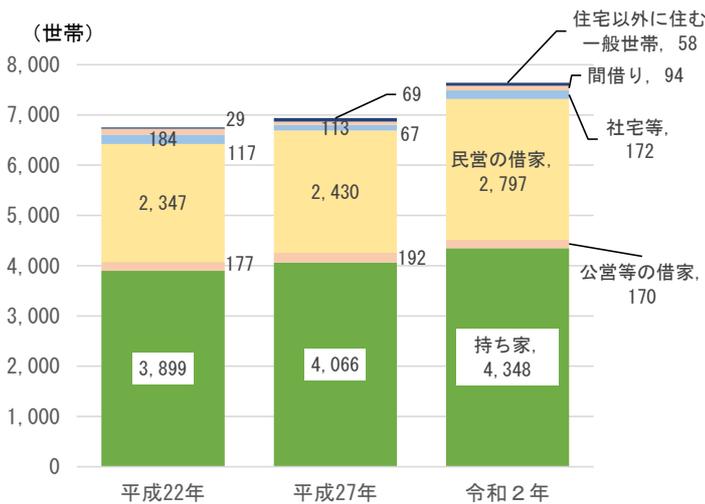


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

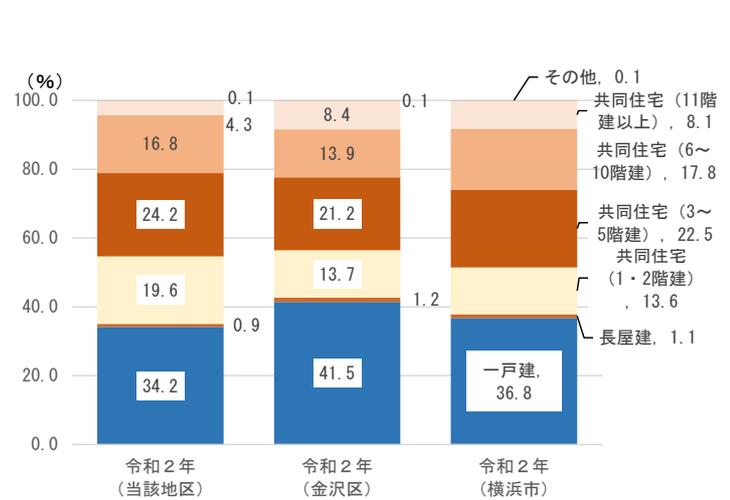


図 15 規模別世帯の動向

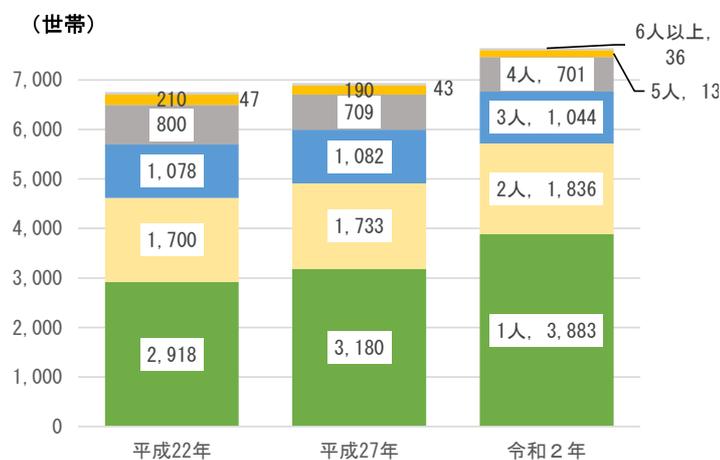
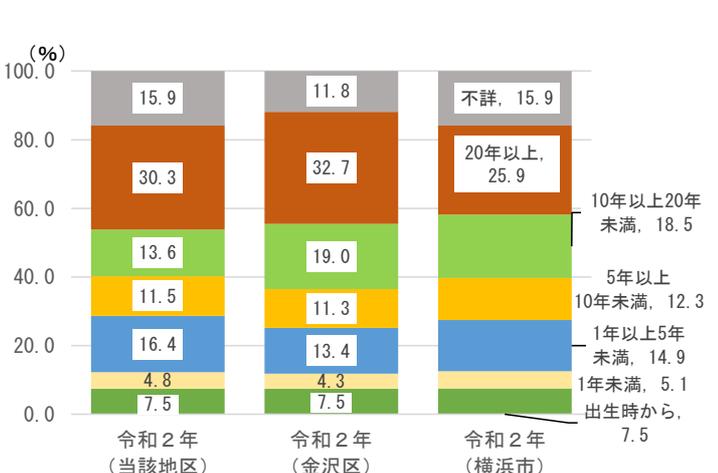


図 16 居住歴別人口の割合 (R2)



## 6. 地区の特徴と動向

六浦地区は平潟湾に面した平地と丘陵からなる地区です。地区内を京急線が南北に走り金沢八景駅があります。横浜市立大学の八景キャンパスが地区の北側に隣接しています。

6歳未満の子どものいる世帯は、平成22～令和2年の期間ほぼ横ばいとなっています。平成22年の429世帯が、令和2年には418世帯となりました。令和2年の6歳未満の子どものいる世帯のうち88.8%が核家族となっています。(図11参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向にあります。令和2年の65歳以上の高齢者のいる世帯2,674世帯のうち、31.3%が夫婦のみの世帯、34.8%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の66.1%を占めています。(図12参照)

住宅の所有関係別では、令和2年は持ち家に住んでいる世帯が4,348世帯で最も多く、次いで多いのは民営の借家に住む世帯は2,797世帯あります。持ち家に住む世帯、民営の借家に住む世帯はともに増加傾向にあります。(図13参照)

令和2年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、一戸建の住宅が最も多く34.2%となっています。この割合は金沢区全体(41.5%)と比べると7.3ポイント下回り、横浜市全体(36.8%)を2.6ポイント下回っています。1・2階建の共同住宅は19.6%と金沢区全体(13.7%)に比べ5.9ポイント、3～5階建の共同住宅(24.2%)は金沢区全体(21.2%)を3.0ポイント上回っており、低中層の共同住宅が多い地区であることが分かります。(図14参照)

六浦地区の世帯人員の推移をみると、「1人」は平成22年の2,918世帯から令和2年の3,883世帯に増加し、一人暮らし世帯が増加しています。(図15参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成27～令和2年の実績値は増加していますが、令和7年以降の人口推計は減少傾向が続くものと推計されています。(図17参照)

今後は年少人口、生産年齢人口とも令和7年をピークに減少に転じる見込みです。高齢人口のうち85歳以上人口は令和17年まで増加傾向が続き、割合は令和22年まで増加が続く見込みです。(図17, 18参照)

図17 人口の動向と推計

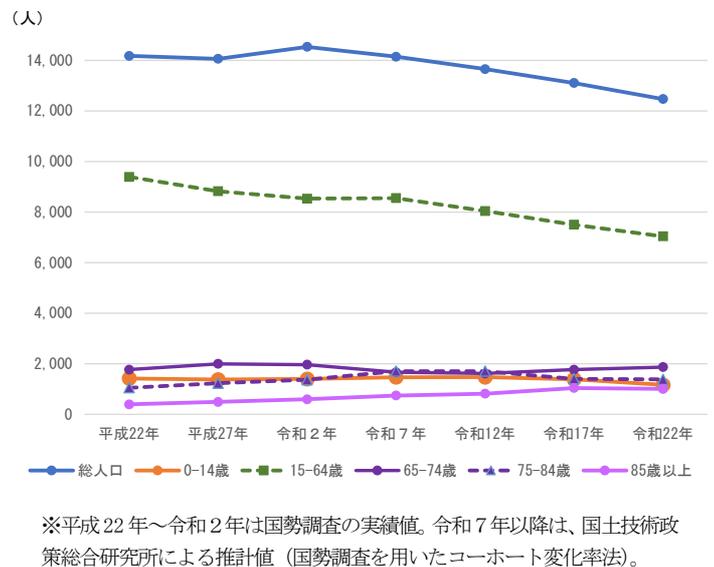


図18 人口の動向と推計 年齢別比率

